

平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量 － 大豆、小豆及びいんげんの収穫量は前年産に比べ増加 －

【調査結果の概要】

1 大豆

全国の大豆の収穫量は24万8,600 tで、前年産に比べ1万600 t（4%）増加した。
これは、北海道や九州において、10 a 当たり収量が作柄の悪かった前年産を上回ったためである。

2 小豆

全国の小豆の収穫量は5万3,400 tで、前年産に比べ2万3,900 t（81%）増加した。
これは、主産地である北海道において、作付面積が増加したことに加え、10 a 当たり収量が作柄の悪かった前年産を上回ったためである。

3 いんげん

全国のいんげんの収穫量は1万6,900 tで、前年産に比べ1万1,300 t（199%）増加した。
これは、主産地である北海道において、作付面積が減少したものの、10 a 当たり収量が作柄の悪かった前年産を上回ったためである。

4 らっかせい

全国のらっかせいの収穫量は1万5,400 tで、前年産に比べ100 t（1%）減少した。

表 大豆、小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
大 豆	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
大豆	150,200	166	248,600	200	100	104	10,600	104	100	166	
小 豆	22,700	235	53,400	1,400	107	170	23,900	181	113	208	
いんげん	7,150	236	16,900	△ 1,410	84	358	11,300	299	136	173	
らっかせい	6,420	240	15,400	△ 130	98	101	△ 100	99	104	231	

注：「(参考) 10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10 a 当たり収量の比率である。

- 本調査は各作物の「乾燥子実」を対象に調査している。
- 「乾燥子実」とは、食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ、さやいんげん等）を除いたものをいう。なお、らっかせいはさやつきのものをいう。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y9 】

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 経営所得安定対策（畑作物の直接支払交付金）の交付単価の算定等のための資料
- ・ 小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の算定のための資料
- ・ 大豆、小豆、いんげん及びらっかせいに関する生産振興に資する各種事業（強い農業づくり交付金等）の推進のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく畑作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の
作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

区 分	大豆			小豆		
	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成20年産	147,100	178	261,700	32,100	216	69,300
21	145,400	158	229,900	31,700	167	52,800
22	137,700	162	222,500	30,700	179	54,900
23	136,700	160	218,800	30,600	196	60,000
24	131,100	180	235,900	30,700	222	68,200
25	128,800	155	199,900	32,300	211	68,000
26	131,600	176	231,800	32,000	240	76,800
27	142,000	171	243,100	27,300	233	63,700
28	150,000	159	238,000	21,300	138	29,500
29（概数）	150,200	166	248,600	22,700	235	53,400

区 分	いんげん			らっかせい		
	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成20年産	10,900	225	24,500	8,070	240	19,400
21	11,200	142	15,900	7,870	258	20,300
22	11,600	190	22,000	7,720	210	16,200
23	10,200	97	9,870	7,440	273	20,300
24	9,650	187	18,000	7,180	241	17,300
25	9,120	168	15,300	6,970	232	16,200
26	9,260	221	20,500	6,840	235	16,100
27	10,200	250	25,500	6,700	184	12,300
28	8,560	66	5,650	6,550	237	15,500
29（概数）	7,150	236	16,900	6,420	240	15,400

資料：農林水産省統計部『作物統計』

【調査結果】

1 大豆（乾燥子実）（統計表 8 ページ参照）

(1) 作付面積

大豆の作付面積は15万200haで、前年産並みとなった。

(2) 10 a 当たり収量

大豆の10 a 当たり収量は166kgで、前年産に比べ4%上回った。

これは、北海道や九州において、おおむね天候に恵まれたことから、台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、被害の発生が少なかったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、100%となった。

(3) 収穫量

大豆の収穫量は24万8,600 t で、前年産に比べ1万600 t（4%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が40%、宮城県及び佐賀県が6%、福岡県が5%、秋田県が4%となっており、この5道県で全国の約6割を占めている。

図 1 大豆の10 a 当たり収量及び収穫量の推移

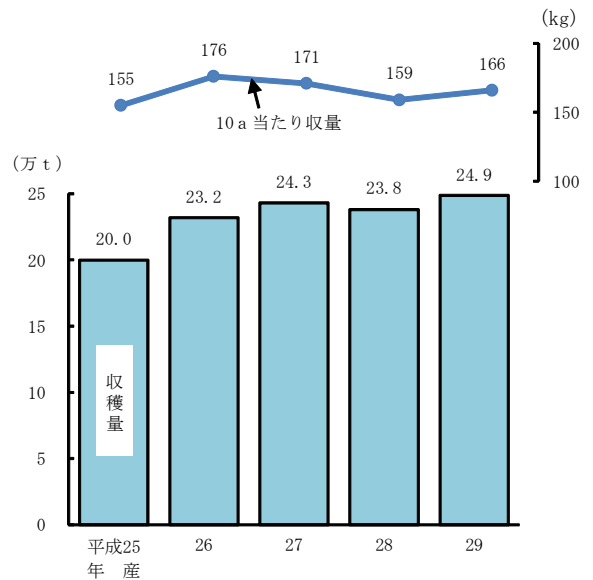
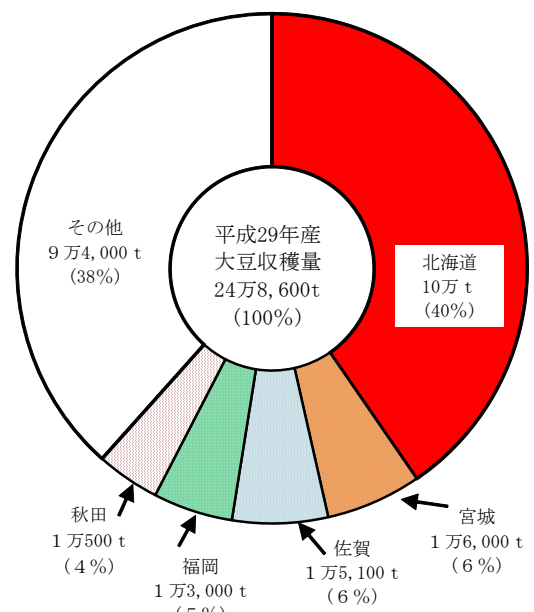


図 2 平成29年産大豆の都道府県別収穫量及び割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

2 小豆（乾燥子実）（統計表 9 ページ参照）

(1) 作付面積

小豆の作付面積は2万2,700haで、前年産に比べ1,400ha（7%）増加した。

これは、主産地である北海道において、いんげんからの転換等があったためである。

(2) 10 a 当たり収量

小豆の10 a 当たり収量は235kgで、前年産に比べ70%上回った。

これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれたことから、台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、登熟が良好で被害の発生も少なかったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、113%となった。

(3) 収穫量

小豆の収穫量は5万3,400tで、前年産に比べ2万3,900t（81%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の約9割を占めている。

図3 小豆の10 a 当たり収量及び収穫量の推移

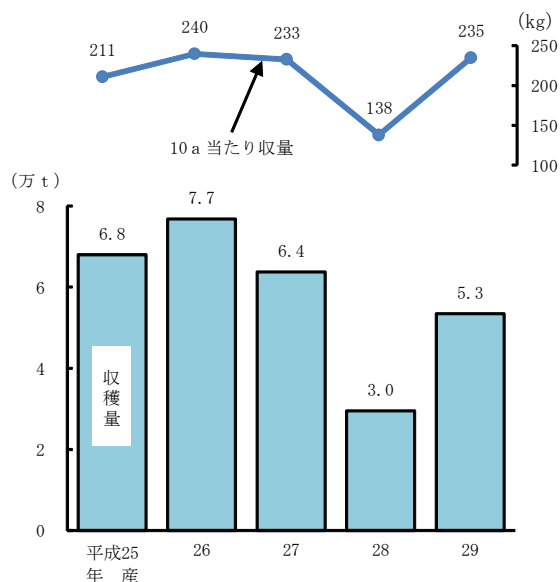
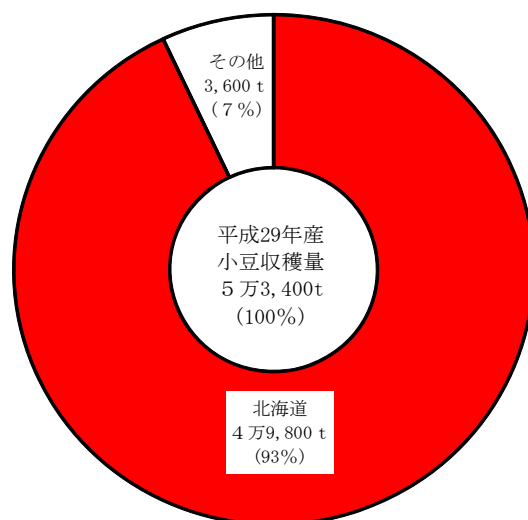


図4 平成29年産小豆の都道府県別収穫量及び割合



3 いんげん（乾燥子実）（統計表9ページ参照）

(1) 作付面積

いんげんの作付面積は7,150haで、前年産に比べ1,410ha（16%）減少した。

これは、主産地である北海道において、小豆等への転換等があったためである。

(2) 10a当たり収量

いんげんの10a当たり収量は236kgで、前年産に比べ258%上回った。

これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれたことから、台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、登熟が良好で被害の発生も少なかったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は、136%となった。

(3) 収穫量

いんげんの収穫量は1万6,900tで、前年産に比べ1万1,300t（199%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の大半を占めている。

図5 いんげんの10a当たり収量及び収穫量の推移

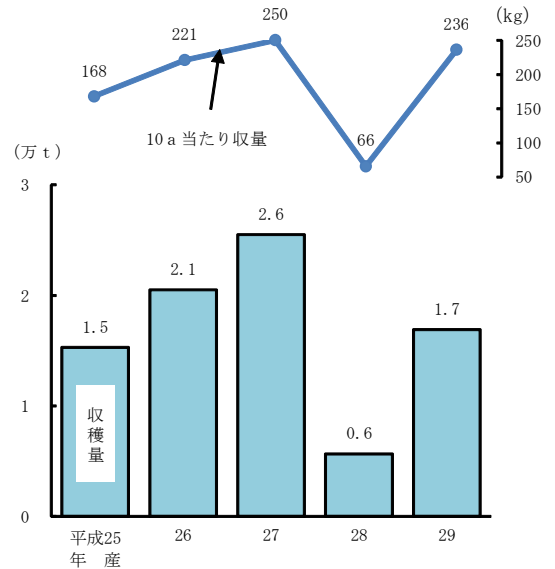
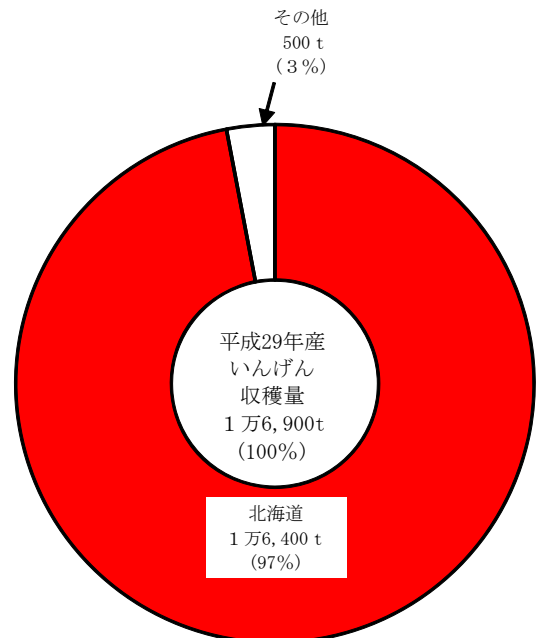


図6 平成29年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合



4 らっかせい（乾燥子実）（統計表 9 ページ参照）

(1) 作付面積

らっかせいの作付面積は6,420haで、前年産に比べ130ha（2%）減少した。

(2) 10a 当たり収量

らっかせいの10a 当たり収量は240kgで、前年産に比べ1%上回った。

なお、10a 当たり平均収量対比は、104%となった。

(3) 収穫量

らっかせいの収穫量は1万5,400tで、前年産に比べ100t（1%）減少した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、千葉県が79%、茨城県が11%となっており、この2県で全国の約9割を占めている。

図7 らっかせいの10a 当たり収量及び収穫量の推移

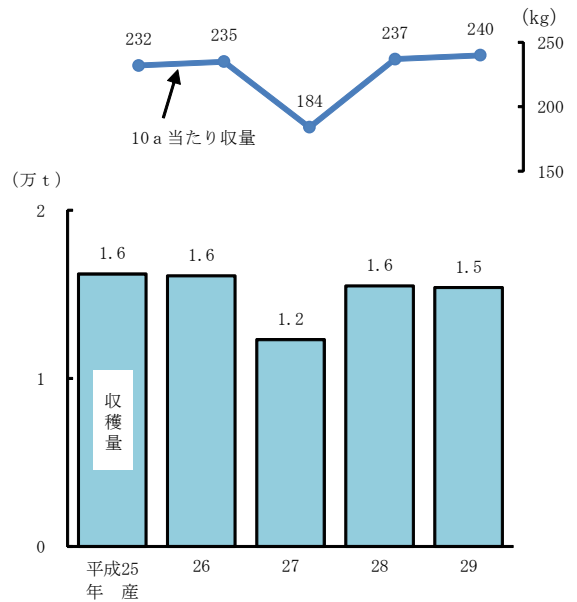
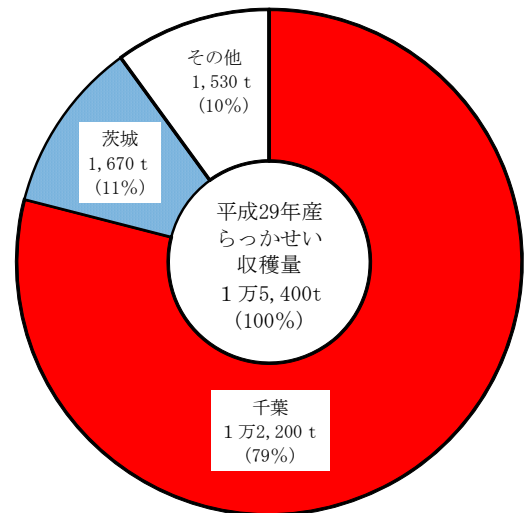


図8 平成29年産らっかせいの都道府県別収穫量及び割合



【統計表】

統計表一覧

	ページ
1 平成29年産大豆（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収量及び 収穫量 -----	8
2 平成29年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収量及び 収穫量 -----	9
3 平成29年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収量 及び収穫量 -----	9
4 平成29年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収 量及び収穫量 -----	9

利用上の注意

- 1 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		6 桁 (10万)	5 桁 (1万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
「0」：単位に満たないもの（例：0.4 t → 0 t）
「△」：負数又は減少したもの
「nc」：計算不能
- 3 この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、「平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」（農林水産省）による旨を記載してください。

1 平成29年産大豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

全国農業地域 ・ 都道府県	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	%	kg	
全 国 (全国農業地域)	150,200	166	248,600								
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
北 海 道	41,000	244	100,000	800	102	116	15,600	118	102	239	
都 府 県	109,200	136	148,600	△ 700	99	97	△ 5,000	97	93	146	
東 北	36,300	130	47,300	400	101	86	△ 6,900	87	92	142	
北 陸	13,500	165	22,300	100	101	99	△ 100	100	103	160	
関 東 ・ 東 山	10,500	136	14,300	△ 200	98	100	△ 300	98	96	141	
東 海	12,100	107	12,900	△ 100	99	96	△ 800	94	89	120	
近 畿	9,880	118	11,700	40	100	87	△ 1,600	88	87	136	
中 国	4,740	117	5,530	△ 150	97	116	570	111	99	118	
四 国	557	98	548	△ 31	95	99	△ 35	94	82	119	
九 州	21,700	157	34,000	△ 500	98	116	4,000	113	90	175	
沖 縄	0	53	0	△ 1	0	156	0	nc	166	32	
(都道府県)											
北 海 道	41,000	244	100,000	800	102	116	15,600	118	102	239	
青 森	4,940	124	6,130	130	103	81	△ 1,230	83	87	142	
岩 手	4,640	119	5,520	90	102	81	△ 1,160	83	94	126	
宮 城	11,200	143	16,000	△ 100	99	95	△ 1,100	94	86	166	
秋 田	8,720	120	10,500	240	103	80	△ 2,200	83	94	128	
山 形	5,130	142	7,280	△ 20	100	89	△ 910	89	104	137	
福 島	1,590	116	1,840	△ 70	96	90	△ 300	86	90	129	
茨 城	3,640	112	4,080	△ 90	98	104	50	101	90	125	
栃 木	2,560	152	3,890	△ 120	96	92	△ 560	87	92	166	
群 馬	316	112	354	15	105	90	△ 22	94	85	131	
埼 玉	679	137	930	△ 26	96	138	232	133	134	102	
千 葉	900	112	1,010	24	103	109	108	112	96	117	
東 京	8	118	9	4	200	95	4	180	97	122	
神 奈 川	42	143	60	3	108	88	△ 3	95	85	168	
新 潟	5,160	181	9,340	10	100	93	△ 650	93	108	167	
富 山	4,780	155	7,410	△ 30	99	121	1,250	120	99	156	
石 川	1,730	159	2,750	50	103	108	280	111	111	143	
福 井	1,820	153	2,780	20	101	74	△ 960	74	92	166	
山 梨	218	124	270	△ 2	99	83	△ 58	82	109	114	
長 野	2,140	174	3,720	△ 30	99	101	△ 10	100	105	165	
岐 阜	2,910	133	3,870	△ 40	99	128	800	126	106	125	
静 岡	255	92	235	△ 29	90	86	△ 69	77	91	101	
愛 知	4,530	117	5,300	20	100	87	△ 740	88	83	141	
三 重	4,420	80	3,540	△ 50	99	84	△ 710	83	84	95	
滋 賀	6,700	126	8,440	20	100	84	△ 1,560	84	84	150	
京 都	304	118	359	△ 20	94	101	△ 20	95	105	112	
大 阪	16	119	19	0	100	106	1	106	96	124	
兵 庫	2,680	101	2,710	50	102	100	50	102	101	100	
奈 良	150	119	179	△ 8	95	99	△ 11	94	86	138	
和 歌 山	29	97	28	0	100	101	0	100	90	108	
鳥 取	713	127	906	△ 2	100	96	△ 38	96	89	143	
島 根	823	136	1,120	△ 50	94	112	60	106	109	125	
岡 山	1,730	115	1,990	△ 90	95	146	550	138	103	112	
広 島	566	92	521	△ 39	94	91	△ 90	85	86	107	
山 口	906	110	997	24	103	107	89	110	103	107	
徳 島	42	45	19	△ 10	81	88	△ 8	70	61	74	
香 川	72	97	70	△ 11	87	115	0	100	100	97	
愛 媛	354	114	404	△ 10	97	96	△ 29	93	82	139	
高 知	89	62	55	0	100	103	2	104	81	77	
福 岡	8,410	155	13,000	△ 20	100	112	1,400	112	88	177	
佐 賀	8,150	185	15,100	△ 220	97	127	2,900	124	95	195	
長 崎	449	116	521	11	103	125	114	128	102	114	
熊 本	2,440	131	3,200	△ 240	91	92	△ 630	84	78	169	
大 分	1,700	88	1,500	△ 20	99	100	△ 10	99	82	107	
宮 崎	233	118	275	△ 28	89	166	90	149	101	117	
鹿 児 島	328	109	358	△ 27	92	130	60	120	92	119	
沖 縄	0	53	0	△ 1	0	156	0	nc	166	32	

注：1 「(参考) 10a 当たり平均収量対比」とは、10a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a 当たり収量の比率である（以下の各統計表において同じ。）。

2 全国農業地域別（以下「地域別」という。）の10a 当たり平均収量は、各都府県の10a 当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた平均収穫量を地域別に積み上げ、当年産の地域別作付面積で除して算出している。

2 平成29年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	22,700 ^{ha}	235 ^{kg}	53,400 ^t	1,400 ^{ha}	107 [%]	170 [%]	23,900 ^t	181 [%]	113 [%]	208 ^{kg}	
うち北海道	17,900	278	49,800	1,700	110	166	22,700	184	115	242	
うち滋賀	52	60	31	1	102	87	△ 4	89	78	77	
うち京都	461	52	240	△ 32	94	100	△ 16	94	91	57	
うち兵庫	690	70	483	△ 9	99	nc	nc	nc	89	79	

3 平成29年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	7,150 ^{ha}	236 ^{kg}	16,900 ^t	△ 1,410 ^{ha}	84 [%]	358 [%]	11,300 ^t	299 [%]	136 [%]	173 ^{kg}	
うち北海道	6,630	248	16,400	△ 1,310	84	359	10,900	299	139	178	
うち金時	5,070	240	12,200	△ 1,100	82	471	9,050	387	157	153	
うち手亡	1,060	289	3,060	△ 140	88	217	1,460	191	128	226	

注：「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。

4 平成29年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	6,420 ^{ha}	240 ^{kg}	15,400 ^t	△ 130 ^{ha}	98 [%]	101 [%]	△ 100 ^t	99 [%]	104 [%]	231 ^{kg}	
うち茨城	561	298	1,670	△ 26	96	100	△ 70	96	106	281	
うち千葉	5,080	241	12,200	△ 90	98	101	△ 100	99	102	236	

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の収穫量調査及び特定作物統計調査の収穫量調査として実施したものであり、豆類の生産に関する実態を明らかにすることにより、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料、経営所得安定対策（畑作物の直接支払交付金）の交付単価の算定等のための資料、小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の算定のための資料、大豆、小豆、いんげん及びらっかせいに関する生産振興に資する各種事業（強い農業づくり交付金等）の推進等のための基礎資料、農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく畑作物共済事業の適切な運営のための資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

ア 大豆

全国

イ 小豆、いんげん及びらっかせい

平成29年産については、主産県を調査の対象としている。

なお、全国調査は6年ごとに実施し、その中間年にあつては、直近の全国調査年における全国の作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び畑作物共済事業を実施する都道府県の範囲（主産県）を調査の対象としている。

(2) 調査対象者の選定

ア 関係団体調査（全数調査）

調査対象作物を取り扱っている全ての農協等の関係団体とした。

イ 標本経営体調査（標本調査）

都道府県ごとの収穫量に占める関係団体の取扱数量の割合が8割に満たない都道府県については、2015年農林業センサスにおいて、調査対象作物を販売目的で作付けし、関係団体以外に出荷した農林業経営体から無作為に抽出した。

(3) 調査対象者数

	関係団体調査			標本経営体調査				
	団体数 ①	有効 回収数 ②	有効 回収率 ③=②/①	母集団 の大きさ ④	標本の 大きさ ⑤	抽出率 ⑥=⑤/④	有効 回収数 ⑦	有効 回収率 ⑧=⑦/⑤
	団体	団体	%	経営体	経営体	%	経営体	%
大豆	645	595	92.2	30,611	1,120	3.7	645	57.6
小豆	118	106	89.8	4,241	166	3.9	99	59.6
いんげん	62	40	64.5	931	87	9.3	44	50.6
らっかせい	7	7	100.0	2,202	379	17.2	156	41.2

注：有効回収数とは、集計に用いた関係団体及び標本経営体の数であり、回収はされたが、当年産において作付けがなかった団体及び経営体は含まれていない。

3 調査事項

- (1) 関係団体調査
作付面積及び集荷量
- (2) 標本経営体調査
作付面積、出荷量及び自家消費の量

4 調査期日

収穫期（主たる収穫期間は、10月～11月）

5 調査方法

関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査及び標本経営体に対する往復郵送調査により行った。

6 集計方法

- (1) 関係団体調査及び標本経営体調査結果から得られた10 a 当たり収量を必要に応じて職員又は統計調査員による巡回及び職員による情報収集の結果により補完し、これに作付面積を乗じて算出している。

- (2) 収穫量の全国値の推計方法

ア 大豆

収穫量の全国値は、各都道府県の収穫量を合計している。

イ 小豆

収穫量の全国値は、次の式により算出した主産県以外の収穫量と主産県の収穫量を合計している。

$$\text{主産県以外の収穫量} = \frac{\text{全国調査を行った平成27年産における主産県以外の10a当たり収量}}{\text{10a当たり収量}} \times \frac{\text{主産県の10a当たり収量の比率}(x)}{\text{10a当たり収量}} \times \text{当年産の主産県以外の作付面積}$$

注：x＝当年産の主産県の10a当たり収量÷全国調査を行った平成27年産における主産県の10a当たり収量

ウ いんげん及びらっかせい

収穫量の全国値は、次の式により算出している。

$$\text{収穫量の全国値} = \frac{\text{全国調査を行った平成27年産における全国の収穫量}}{\text{主産県の収穫量}} \times \text{主産県の収穫量の比率}(x)$$

注：x＝当年産の主産県の収穫量÷全国調査を行った平成27年産における主産県の収穫量

7 実績精度

本調査の10 a 当たり収量に係る調査結果の実績精度を標準誤差率により示すと、いんげん（主産県計、以下同じ。）3.8%、らっかせい3.2%である。

なお、大豆及び小豆については、主要な都道府県において標本経営体調査を行っていないこと等から、実績精度の算出は行っていない。

注：標準誤差率（%）＝標準誤差の推定値÷推定値×100

8 全国農業地域の表章区分

全国農業地域名	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

9 用語の解説

- (1) 「乾燥子実」とは、豆類で食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ、さやいんげん等）を除いたものをいう。
また、らっかせいはさやつきのものをいう。
- (2) 「作付面積」とは、は種又は植付けをしてからおおむね1年以内に収穫され、複数年にわたる収穫ができない非永年性作物を作付けしている面積をいう。
- (3) 「収穫量」とは、収穫し、収納（保存又は販売できる状態にして収納舎等に入れることをいう。）がされた一定の基準（品質・規格）以上のものの量をいう。
- (4) 「10 a 当たり収量」とは、実際に収穫された10 a 当たりの収穫量をいう。
- (5) 「10 a 当たり平均収量」とは、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値をいう。
- (6) 「10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量に対する10 a 当たり収量の比率をいう。

10 その他

この資料の数値は、概数値である。確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（平成30年4月予定）するとともに、その後発刊する『平成29年産作物統計』に掲載する。

なお、作付面積に係る数値は確定値であり、詳細な数値はホームページに掲載（平成30年2月予定）するとともに、その後発行する『平成29年耕地及び作付面積統計』に掲載する。

また、公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「いも・雑穀・豆」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y9 】

【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省>組織別から探す>大臣官房

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省>組織別から探す>政策統括官

http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

FAX： 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 広報普及班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037

FAX： 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>